“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”

～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～

福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和３年度福岡教育事務所管内「子どもの読書習慣形成・定着支援事業 ～読書活動応援隊スキルアップセミナー～」
期　日	令和３年６月１７日（木）　１３：３０～１５：５５（受付１３：１５～）
参加者	８６名（オンライン参加）
日　程	

時　　間	内　　容
１３：１５	【 受　　付 】※Zoom 入室時間
１３：３０	【 開会行事 】
１３：３５	【 説　　明 】「本セミナーのねらいについて」 福岡教育事務所　社会教育室　社会教育主事
１３：５０	【講話・演習】「ようこそ、読書のアニマシオンへ」 子どもの本かごしま　　代表　種村　エイ子　氏
１５：５０	
１５：５５	【 閉　　会 】

活動の実際

【実践発表】

【種村氏による講話の様子】

初めに、子どもの本かごしま代表の種村エイ子氏に、「読書活動としてのアニマシオンの可能性」と題して、講話をしていただきました。種村氏は、子どもの本かごしま（かごしまアニマシオン倶楽部）を立ち上げられて 15 年、代表として鹿児島県を中心にアニマシオンの素晴らしさを広めてこられてきています。アニマシオンとは何かについて、アニマシオンの始まりから丁寧にお話いただきました。また、フランスでのアニマシオンの研修についてや学校図書館との連携についてもお話していただきました。種村先生ご自身の読書が大変お好きであることがとても伝わってくるお話でした。

参加者のアンケートでは、「読書の楽しさを伝えるためのいろいろな手立ての可能性を感じることができた。」や「(アニマシオンは) 本を読んでい

	なくても参加でき、本を読もうという意欲の向上につながると思った。」など、読書活動の推進においてアニマシオンの可能性の広がりが感じられる感想が多くありました。 【演　習】 国語科（光村図書5年）の教科書にある「5年生の本棚」で紹介されている本を使って「どの本読もうかな？」という読書のアニマシオンを参加者の皆様に体験していただきました。10冊の本の中からどの本が読みたくなったかを交流するという演習をZoomのブレイクアウトルーム機能を使い、4人程度のグループで行いました。最初は、本の題名のみを見て、どの本が読みたくなったかを考え、交流しました。その後、全体でもチャットを活用して選んだ本について交流しました。次に表紙を見て読みたくなった本を選び、同じように交流しました。最後に、本の目次や書き出しの文章と本の題名をつなげることをした後に、1回目2回目と同じように読みたくなった本を選びました。3回目は、どの本を選んだかということに加えて、その理由についても交流しました。参加者をランダムに組み合わせた交流でしたが、回を重ねるごとに打ち解けて話をされている様子がみられました。また、回を重ねるごとに選ぶ本が変わっていくことの面白さや、周りの人の読んでみたい理由をきいて意見を交わすことの楽しさを実感していただけたようです。小学校5年生を対象とした本を使った演習内容でしたが、どの学年の児童・生徒にも応用できるアニマシオンでした。また、現在のコロナ禍の状況も踏まえて、Zoom を使っての読書のアニマシオンを提案していただき、参加者がすぐに実践につなげることができる演習となりました。 参加者のアンケートでは、「子どもの立場になったとき、書名のみの印象と表紙を見た印象、実際に書き出しの文章を読んだことで、読みたくなる本が変化するのを実感できました。」「他図書館の方などからのお話も聞くことができて楽しかった。本の紹介の仕方もいろいろあるのだなと思った。」など、演習が今後の取組の参考になったという感想が多くありました。 【Zoomでの参加者の様子】
全体をとおして	参加者のアンケートでは、「実際に（アニマシオンの）体験をしたことで楽しさがわかった」や「同じ市町の小中学校・公立図書館で連携して、長期的・継続的な読書推進活動を考えていきたい」などという感想があり、それぞれの参加者が今後の取組のヒントを得ることができたのではないかと考えます。 福岡教育事務所社会教育室といたしましても、この研修会で学んで終わりではなく、参加者が学んだことを一つでも実践していただけるように引き続き支援を行っていきたいと思います。